

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 松岡 潤

本研究は、自殺リスクの高い発症早期統合失調症に関して、近赤外線分光鏡（NIRS）を用い、自殺企図に関連する脳血流変化を検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 自殺企図歴を有する統合失調症では自殺企図歴の無い統合失調症および健常者と比較して、右背外側前頭前野での脳血流変化量が小さかった。また、右背外側前頭前野の脳血流変化は、自殺企図歴の有無と有意な関連を示した。
2. 右背外側前頭前野の酸素化ヘモグロビン濃度変化量と、NIRS 計測日と自殺企図日との間隔との間には相関を認めなかった。
3. 統合失調症の重症度が高いほど語流暢性課題中の酸素化ヘモグロビン濃度変化量が低いことが知られているが、右背外側前頭前野に対応するチャンネルの酸素化ヘモグロビン濃度変化量は、精神症状の重症度とは関連を示さず、自殺企図の有無が有意な関連を認めた。

以上、本研究では発症早期統合失調症における自殺企図に特徴的な脳血流動態について検討し、右背外側前頭前野の脳血流変化量の低下が自殺企図群と非自殺企図群、健常群とを弁別する血流動態であると結論した。また、右背外側前頭前野が、眼窩皮質前頭前野や腹外側前頭前野などと同様に衝動性制御を担う領域であることや、統合失調症の自殺企図例では非自殺企図例よりも衝動性が亢進していることが知られていることなどから、発症早期統合失調症における自殺企図に関連した衝動性の制御障害を NIRS が検出しようと考察した。本研究は、発症早期統合失調症の自殺企図に関する前頭側頭部の脳血流変化を 52 チャンネル NIRS 装置により測定し、自殺企図を有する統合失調症の脳血流変化を解析した最初の報告であった。統合失調症における自殺企図の脳機能障害の解明に貢献をなすと考えられ、本研究は学位の授与に値すると考えられる。